

千葉市古山遺跡

2010

有限会社 開 成
財団法人 千葉市教育振興財団

千葉市古山遺跡

2010

例言

1. 本書は、千葉市若葉区に所在する古山遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は宅地造成に伴うもので、財団法人千葉市教育振興財団が有限会社開成より委託を受けて実施した。
3. 本書に所収した遺跡の所在地・調査期間・面積・担当者は次の通りである。
 - ① 所在地 若葉区加曾利町1731の一部
 - ② 調査期間 平成22年1月18日～平成22年1月27日
 - ③ 調査面積 上層 100㎡（本調査）
 - ④ 担当者 古谷 渉
4. 整理作業及び本書の作成は、平成22年2月1日～2月12日に行い、古谷渉が担当した。
5. 遺構・遺物の写真は古谷が撮影した。
6. 出土遺物及び調査記録は、すべて千葉市埋蔵文化財調査センターに収蔵保管している。
7. 発掘調査の実施から報告書刊行に至るまで、下記の諸機関・諸氏のご指導・ご協力を賜った。記して謝意を表したい。（順不同・敬称略）
千葉県教育庁教育振興部文化財課、千葉市教育委員会生涯学習部生涯学習振興課、有限会社開成

凡例

1. 本書に掲載した遺構図等の方位は、公共座標の北を基準としている。
2. 土層及び遺物の色を記号で示してある場合は、農林水産省監修「新版 標準土色帖」による。
3. 本文中の挿図の縮尺は原則として以下のとおりであるが、各図中に縮尺を示してある。
遺構実測図の縮尺は、住居：1/60である。
遺物実測図の縮尺は、土器復元：1/4 土器破片：1/3である。
4. 第1図は国土地理院発行の2万5千分の1地形図「千葉東部」より作成したものである。

目次

例言・凡例

目次

第1章	はじめに	1
1	調査に至る経緯	
2	遺跡の位置及び周辺遺跡	
第2章	検出された遺構と遺物	3
1	調査の概要	
2	竪穴住居跡	
3	出土遺物	

写真図版

抄録

挿図目次

第1図	遺跡の位置及び周辺遺跡	2
第2図	周辺地形図	2
第3図	遺構配置図	3
第4図	1号住居跡実測図	4
第5図	1号住居跡焼土・炭化材実測図及び出土遺物実測図	5

写真図版目次

写真図版 1	1号住居跡貯蔵穴セクション
遺跡遠景（南東より）	1号住居跡貯蔵穴完掘状況
遺跡遠景（南より）	1号住居跡完掘状況（西より）
1号住居跡東西セクション（南より）	1号住居跡完掘状況（東より）
1号住居跡南北セクション（東より）	1号住居跡掘り方完掘状況（西より）
1号住居跡焼土・炭化材出土状況（西より）	1号住居跡掘り方完掘状況（東より）
1号住居跡焼土・炭化材出土状況（東より）	
1号住居跡遺物出土状況 1	写真図版 3
1号住居跡遺物出土状況 2	作業風景 1
	作業風景 2
写真図版 2	作業風景 3
1号住居跡炉セクション	作業風景 4
1号住居跡炉完掘状況	出土遺物

第1章 はじめに

1 調査に至る経緯

土地所有者より、平成21年7月28日付けで千葉市教育委員会教育長あてに千葉市若葉区加曾利町1730他（事業面積3,374㎡）の宅地造成計画地について、文化財保護法第93条第1項に基づき「埋蔵文化財発掘の届出について」の文書が提出された。

届出地を含む一帯は、古山遺跡（若葉区-No.135）に該当しており、隣接地において昭和63年度に発掘調査が実施され、縄文時代、古墳時代の竪穴住居跡等が検出されていることから届出地全域について発掘調査が必要である旨を通知した。

その後の協議により、千葉市教育委員会から委託を受けた財団法人千葉市教育振興財団埋蔵文化財調査センターが、埋蔵文化財発掘調査（市内遺跡）として対象地の確認調査を平成21年9月17日から平成21年10月7日の期間で実施した。確認調査の結果、古墳時代前期の竪穴住居跡1軒などが検出されたため、平成21年10月9日付けで調査範囲のうち100㎡について本調査が必要である旨を事業者へ通知した。

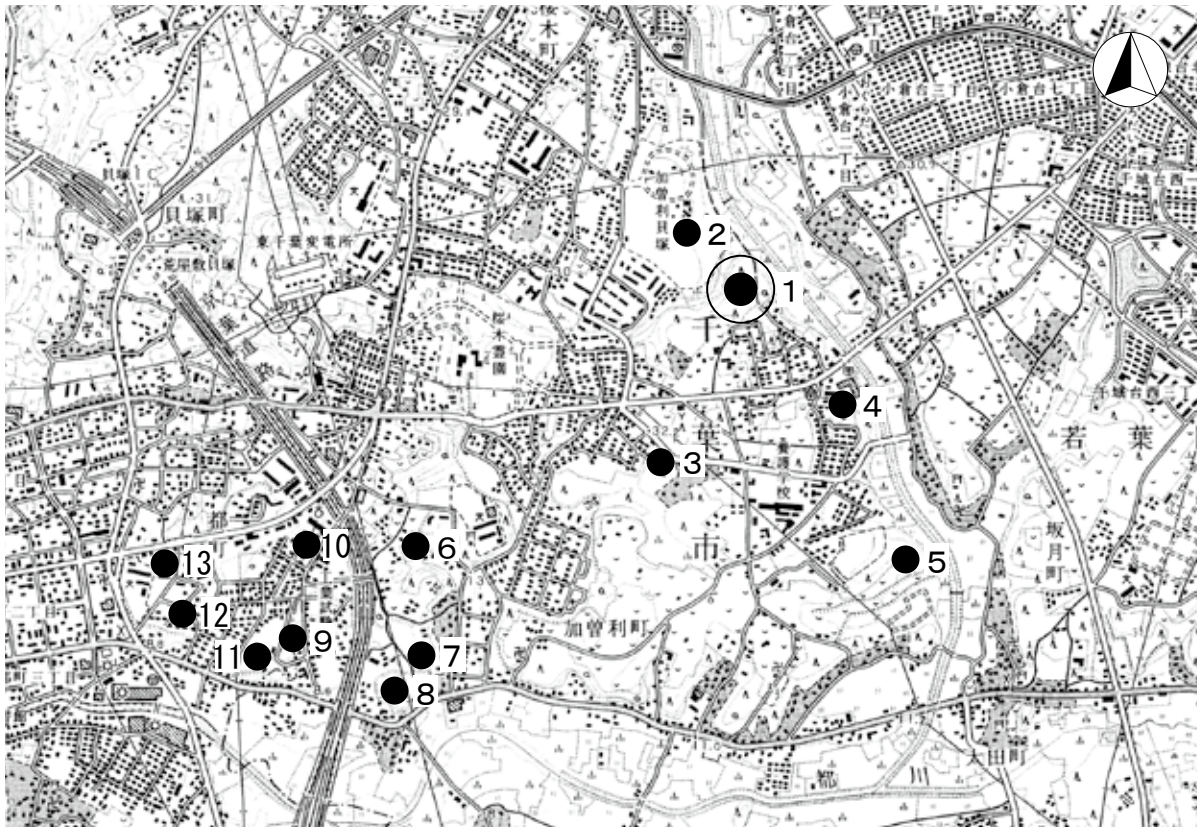
この結果に基づき、施工者である有限会社開成と協議したところ、本調査を実施し記録保存をすることで合意し、有限会社開成から委託を受けた財団法人千葉市教育振興財団埋蔵文化財調査センターが、平成22年1月18日から平成22年1月27日の期間で調査を実施した。

（千葉市教育委員会生涯学習部生涯学習振興課）

2 遺跡の位置及び周辺遺跡（第1・2図）

古山遺跡(1)は、都川支流の坂月川に面した標高約26mを測る台地上に位置しており、北側に面した谷津は古山支谷と呼ばれている。古山遺跡は昭和63年度に財団法人千葉市文化財調査協会により発掘調査が行われ、縄文時代早～中期の竪穴住居跡4軒、土坑22基、集石1基、古墳時代初頭の竪穴住居跡1軒、古墳時代前・中期の竪穴住居跡23軒、土坑2基が検出された。北へ約200mの古山支谷対岸台地上には、縄文時代中・後・晩期の貝塚・集落遺跡である加曾利貝塚(2)が、南西約700mの台地上には、古墳時代の若郷古墳群(3)が、南東約400mの台地上には、古墳～奈良・平安時代の集落遺跡である若郷遺跡(4)が、南東約1.1kmの台地上には、古墳時代前・後期の包蔵地である永作遺跡(5)が所在する。若郷遺跡は、坂月川西岸の台地上に立地する古墳時代前・中期の集落遺跡であり、古山遺跡との類似性が認められる。

都川北岸台地上に、古墳時代前・中期の遺跡群（6～13）が集中して分布している。南西約1.4kmの台地上には、古墳時代前・後期の集落遺跡・古墳である立木南遺跡(6)が、南西約1.6kmの台地上には、古墳時代前・中期の集落遺跡・古墳である田向南遺跡(7)が、南西約1.8kmの台地上には、古墳時代前期の集落遺跡・古墳である和田前遺跡(8)が、南西約1.9kmの台地上には、古墳時代前期の方形周溝墓群が検出された和田前西遺跡(9)が、南西約1.7kmの台地上には、古墳時代前・中期の集落遺跡・古墳である蛤谷津上遺跡(10)が、南西約2.0kmの台地上には、古墳時代前期の古墳である御所ヶ原郭遺跡(11)が、南西約2.2kmの台地上には、古墳時代前期の方形周溝墓が検出された辺田遺跡(12)が、南西約2.1kmの台地上には、古墳時代前期の集落遺跡である向ノ台遺跡(13)が所在する。



第1図 遺跡の位置及び周辺遺跡 (1/25,000)



第2図 周辺地形図 (1/5,000)

第2章 検出された遺構と遺物

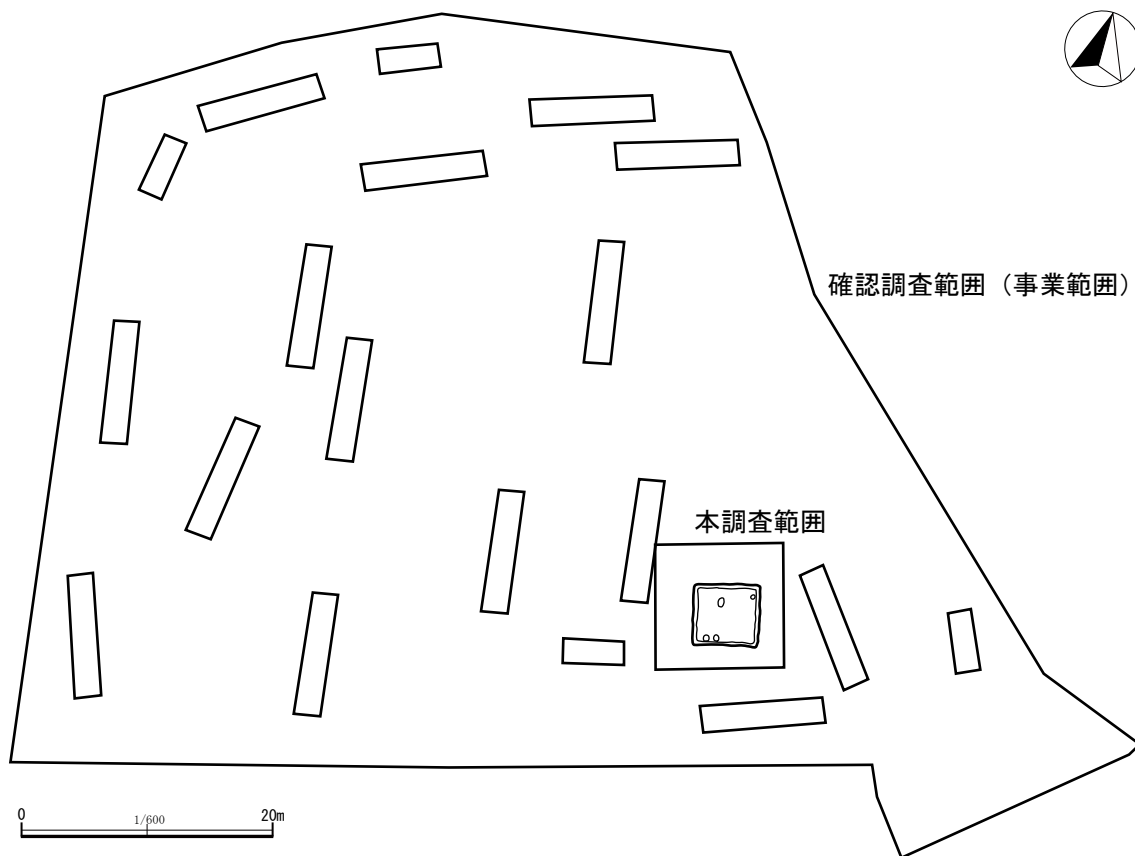
1 調査の概要 (第3図)

今回の調査区は遺跡の南西側部分の山林で、確認調査で古墳時代前期の竪穴住居跡1軒が検出され、今回、本調査でその竪穴住居跡を調査した。竪穴住居跡は、事業範囲の南東部分から検出されており、古墳時代前期の集落の範囲がここまで及んでいることが確認された。

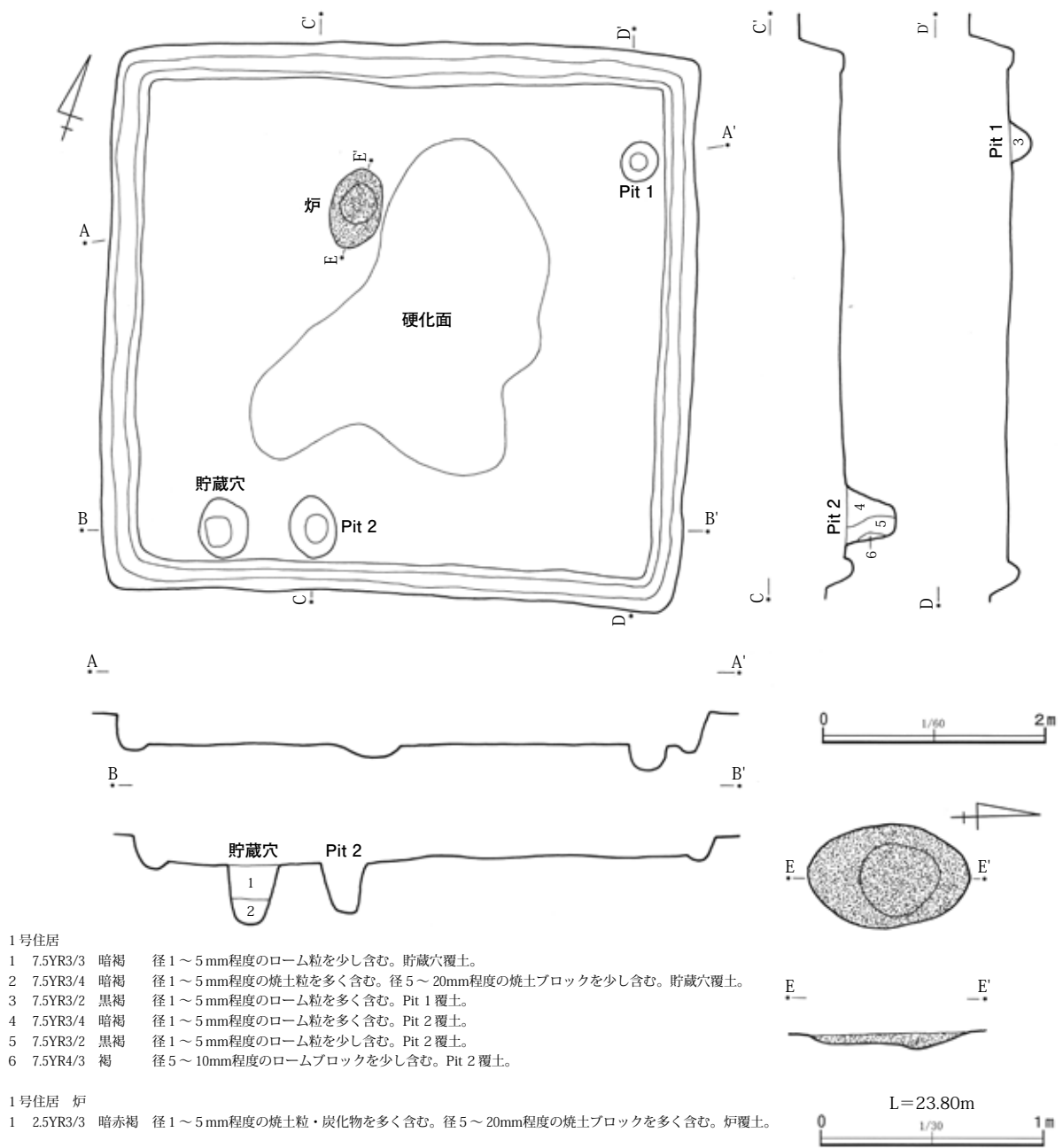
基本層序は、Ⅰ層：表土層30～40cm (7.5YR3/2 黒褐色)、Ⅱa層：古墳時代遺物包含層20cm (7.5YR3/2 黒褐色)、Ⅱb層：縄文時代遺物包含層20cm (7.5YR3/3 暗褐色)、Ⅱc層：漸移層(遺構確認面)20cm (7.5YR3/4 暗褐色)、Ⅲ層：ソフトローム層(7.5YR4/3 褐色)である。

2 竪穴住居跡 (第4・5図)

主軸方位はN-15°-Wで、規模は主軸長4.95×横軸長5.30mである。周溝は全周している。残存壁高は20～40cmで垂直気味に立ち上がる。炉1基、貯蔵穴1基、柱穴2本が検出され、中央部に硬化面がみられた。床面に焼土・炭化材が堆積しており、とくに北側と南側の壁際に多くみられた。遺物は確認調査で覆土中から小型の壺(第5図1)が出土し、本調査で炉の直上から高坏(第5図2)が出土した。他に覆土中及び掘り方から古墳時代の土師器片が、覆土中及び掘り方、竪穴住居跡周辺から縄文時代前・中・後期の縄文土器片(第5図3～11)が出土した。



第3図 遺構配置図

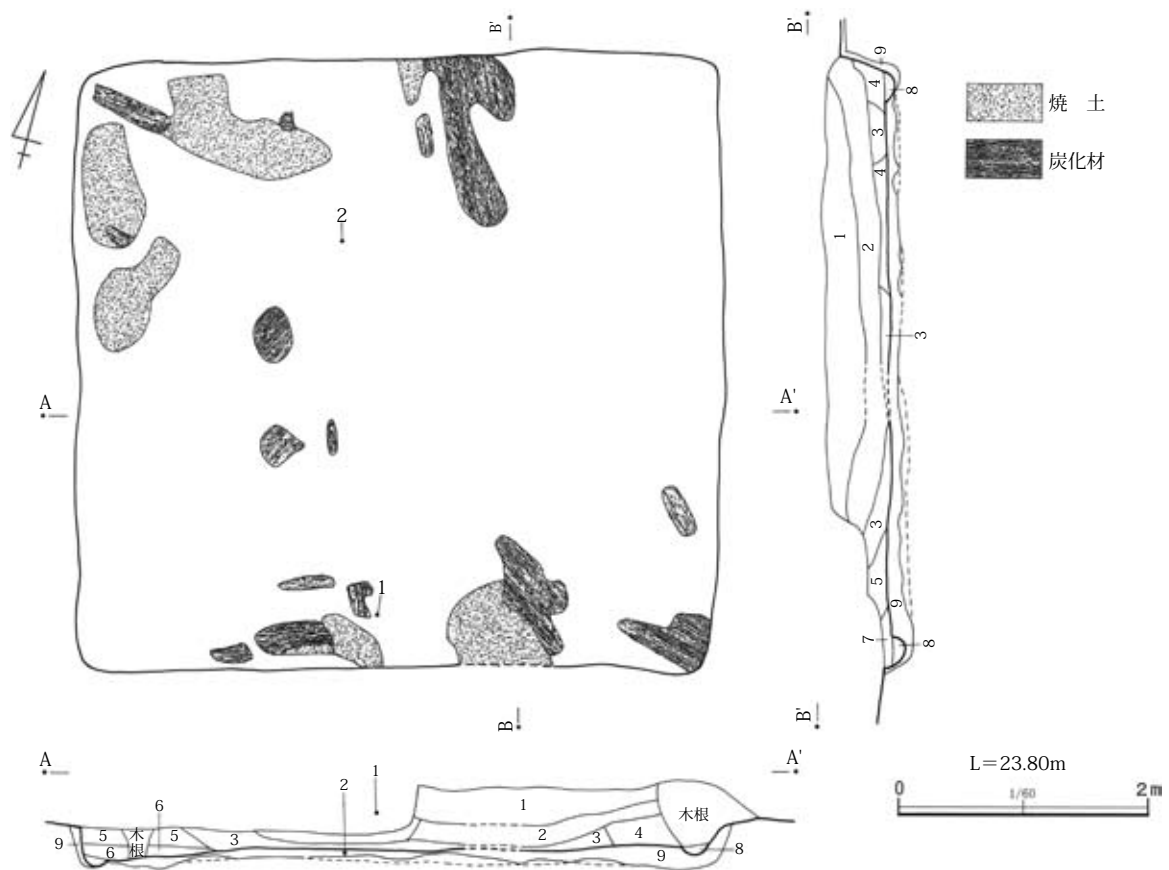


第4図 1号住居跡実測図

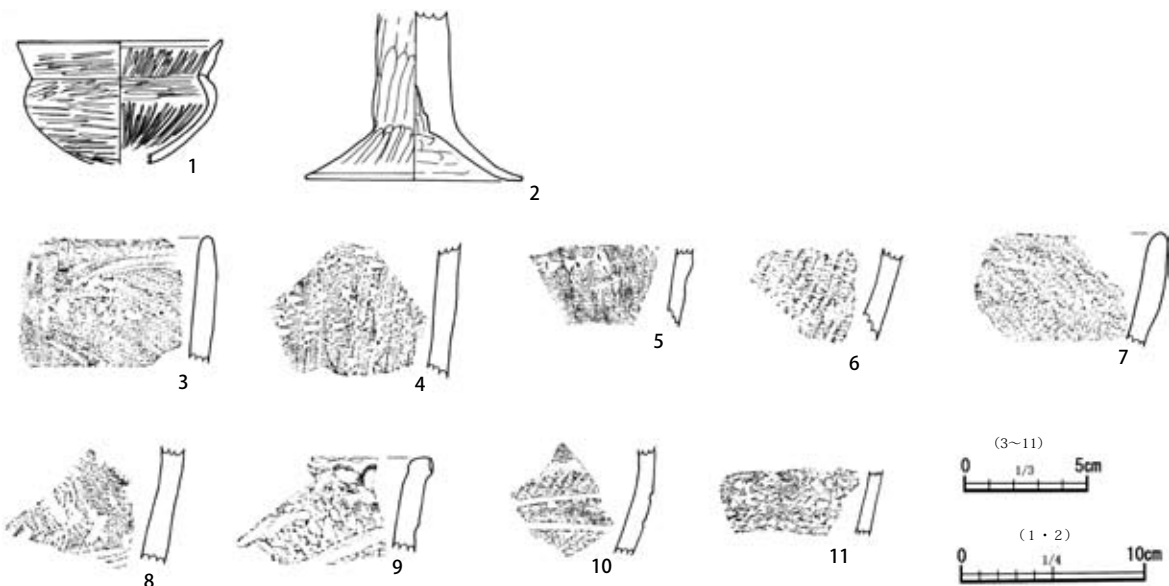
3 出土遺物 (第5図)

1は小型の壺である。復元口径11.2cm、残存器高6.6cm、残存度は1/2である。口縁部外面はヨコナデ後ミガキ、胴部外面はケズリ後ミガキ、内面はナデ後ミガキの調整が行われている。色調は外面が7.5YR6/3 にぶい褐色で、内面が7.5YR7/4 にぶい橙色である。底部付近に黒班(5Y 3/1 オリーブ黒色)が存在する。

2は高坏である。底径11.8cm、基部径3.7cm、残存器高9.0cm、残存度は底部1/2である。底部外面はヨコナデ、基部から底部はミガキに近いナデ、底部内面はヨコナデ、基部から底部内面はナデの調整が行われている。色調は5YR 6/6 橙色である。



- 1号住居
- | | | |
|---|--------------|--|
| 1 | 7.5YR3/2 黒褐 | 径1~5mm程度のローム粒を少し含む。7.5YR3/4 暗褐色土を斑紋状に含む。 |
| 2 | 7.5YR3/1 黒褐 | 径1~5mm程度のローム粒・焼土粒・炭化物を少し含む。 |
| 3 | 7.5YR3/3 暗褐 | 径1~5mm程度のローム粒を多く含む。径1~5mm程度の焼土粒・炭化物を少し含む。 |
| 4 | 7.5YR3/3 暗褐 | 径1~5mm程度のローム粒・焼土粒・炭化物を多く含む。径5~50mm程度の焼土ブロックを少し含む。 |
| 5 | 7.5YR3/3 暗褐 | 径1~5mm程度のローム粒・焼土粒・炭化物を多く含む。 |
| 6 | 7.5YR3/4 暗褐 | 径1~5mm程度のローム粒を多く含む。径1~5mm程度の焼土粒・炭化物を少し含む。
径5~20mm程度のロームブロックを少し含む。 |
| 7 | 2.5YR4/6 赤暗褐 | 焼土ブロック。 |
| 8 | 7.5YR3/4 暗褐 | 径5~20mm程度のロームブロックを多く含む。周溝覆土。 |
| 9 | 7.5YR3/3 暗褐 | 径1~5mm程度のローム粒・焼土粒を少し含む。よくしまっている。貼り床。 |



第5図 1号住居跡焼土・炭化材実測図及び出土遺物実測図

3～11は縄文土器である。3～5は竪穴住居跡周辺から出土し、6～11は竪穴住居跡の覆土中及び掘り方から出土した。

3は前・中期の深鉢の口縁部である。条線が施されている。色調は外面が10YR 4/1 褐灰色で、内面が10YR 6/3 にぶい黄橙色である。

4は前・中期の深鉢の胴部で、条線施文後に押引文が施されている。色調は外面が7.5YR 6/4 にぶい橙色で、内面が10YR 6/3 にぶい黄橙色である。

5は前・中期の深鉢の胴部で、押引文が施されている。色調は外面が10YR 6/4 にぶい黄橙色で、内面が7.5YR 2/1 黒色である。

6は前・中期の深鉢の胴部で、R L 縄文が施されている。色調は外面が2.5Y 4/1 黄灰色で、内面が5YR 4/6 赤褐色である。

7は中期前半阿玉台式の深鉢の口縁部で、R L 縄文が施され、胎土に雲母を多く含んでいる。色調は外面が7.5YR 6/4 にぶい橙色で、内面が10YR 6/2 灰黄褐色である。

8は中期の深鉢の胴部で、櫛歯条線が施されている。色調は内外面とも7.5YR 7/4 にぶい橙色である。

9は後期中葉加曾利B式の深鉢の口縁部で、R L 縄文施文後に条線が施され、紐線が貼り付けられている。内面沈線を有する紐線文系である。色調は外面が7.5YR 6/6 橙色で、内面が7.5YR 7/3 にぶい橙色である。

10は後期中葉加曾利B式の深鉢の胴部で、L R 縄文施文後に沈線区画が施され、区画内が磨り消されている。色調は外面が7.5YR 7/6 橙色で、内面が7.5YR 4/1 褐灰色である。

11は後期中葉加曾利B式の深鉢の胴部で、L R 縄文が施されている。色調は外面が7.5YR 7/6 橙色で、内面が5YR 6/6 橙色である。

<参考文献>

- 千葉市教育委員会 1976 「千葉市加曾利町古山遺跡確認調査報告」『千葉市文化財調査報告書第1集』
- 千葉市教育委員会 1989 「古山遺跡」『昭和63年度千葉市内遺跡群発掘調査報告書』
- (財)千葉市文化財調査協会 1990 「古山遺跡」『千葉市文化財調査協会年報2』
- (財)千葉市文化財調査協会 1990 『千葉市古山遺跡』
- 千葉県教育委員会 1999 『千葉県埋蔵文化財分布地図(3) ー千葉市・市原市・長生地区(改訂版)ー』
- (財)千葉市文化財調査協会 2002 「8. 古山遺跡の調査ー昭和63年度ー」『平成13年度千葉市遺跡発表会要旨』
- (財)千葉県史料研究財団 2003 「224. 古山遺跡」『千葉県の歴史 資料編 考古2(弥生・古墳時代)』
- (財)千葉市教育振興財団 2010 「2. 古山遺跡」『平成21年度千葉市遺跡発表会要旨』



遺跡遠景（南東より）



遺跡遠景（南より）



1号住居跡東西セクション（南より）



1号住居跡南北セクション（東より）



1号住居跡焼土・炭化材出土状況（西より）



1号住居跡焼土・炭化材出土状況（東より）

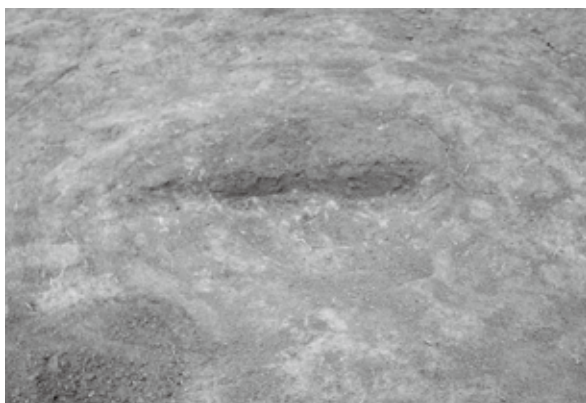


1号住居跡遺物出土状況 1

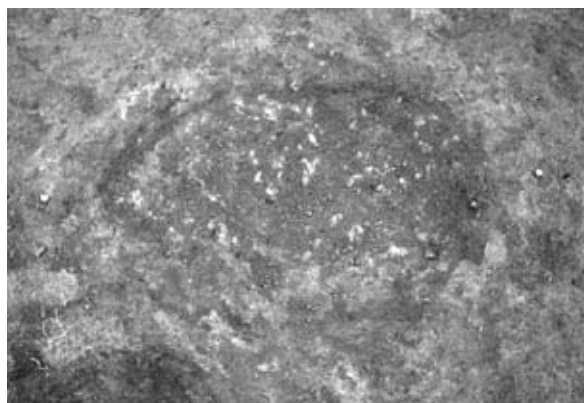


1号住居跡遺物出土状況 2

写真図版 2



1号住居跡炉セクション



1号住居跡炉完掘状況



1号住居跡貯蔵穴セクション



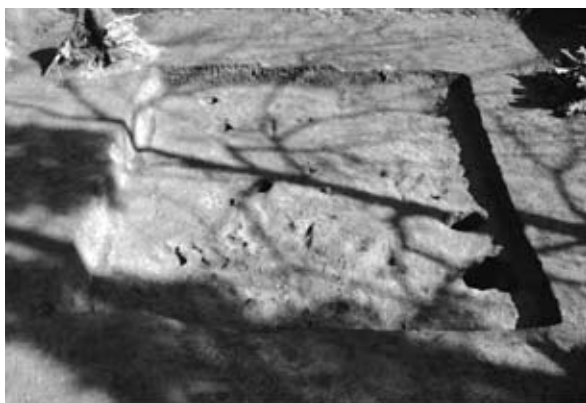
1号住居跡貯蔵穴完掘状況



1号住居跡完掘状況（西より）



1号住居跡完掘状況（東より）



1号住居跡掘り方完掘状況（西より）



1号住居跡掘り方完掘状況（東より）



作業風景 1



作業風景 2



作業風景 3



作業風景 4

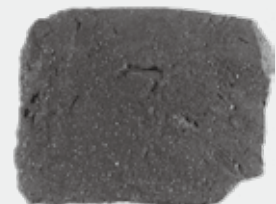
出土遺物



第 5 図- 1



第 5 図- 2



第 5 図- 3



第 5 図- 4



第 5 図- 5



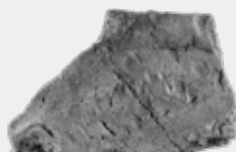
第 5 図- 6



第 5 図- 7



第 5 図- 8



第 5 図- 9



第 5 図- 10



第 5 図- 11

報告書抄録

ふりがな	ちばし ふるやまいせき							
書名	千葉市 古山遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	古谷 渉							
編集機関	財団法人 千葉市教育振興財団 埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒260-0814 千葉市中央区南生実町1210 TEL：043-266-5433							
発行年月日	2010年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		経緯度		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
ふるやま 古山遺跡	わかほく 若葉区 かそりちよう 加曾利町1731 の一部	12104	若葉区 135	35° 37' 13"	140° 10' 2"	20100118 ～ 20100127	100㎡	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
古山遺跡		縄文時代 前・中・後期		縄文土器				
		古墳時代 前期		土師器				
要約	<p>古山遺跡は昭和63年度に発掘調査が行われ、縄文時代早～中期と古墳時代初頭・前・中期の集落跡であることが判明した。</p> <p>今回の調査区は遺跡の南西側部分の山林で、確認調査で古墳時代前期の竪穴住居跡1軒が検出され、今回、本調査でその竪穴住居跡を調査した。竪穴住居跡は、事業範囲の南東部分から検出されており、古墳時代前期の集落の範囲がここまで及んでいることが確認された。</p>							

千葉市古山遺跡

平成22年3月31日発行

編集・発行 有限会社 開成
財団法人 千葉市教育振興財団
埋蔵文化財調査センター
〒260-0814 千葉市中央区南生実町1210
TEL 043-266-5433

印刷 株式会社 弘報社印刷
〒266-0026 千葉市緑区古市場町474-268
TEL 043-268-2371

